ひらりんちゃん通信（園長室だより）⑤

令和７年 12 月 18 日
文京区立千駄木幼稚園
園長　　篠澤　恵理

「もう１回」を支えて

先日の誕生会での園長挨拶で、「いろいろな遊びの中で、『もう１回』と思う気持ちをもつことが大切」という話をしたところ、何人かが「もう１回と思って（これを）やったよ」と、遊びの報告に来ました。一輪車や縄跳びなどに挑戦する子、ボール投げを繰り返す子など、自分なりの目当てをもったり、自分が好きだと思う遊びに没頭したりと、「こうしたい」「やってみよう」と思いながら繰り返す姿が見られます。子どもたちから「見ていてね」と言われて、見届けていると、振り向いては満足気な表情で微笑み、また続けています。見てもらえたことで、自分の力を実感し、次への意欲につながっているようです。

また、他の月の誕生会での園長挨拶で、衣装替えをした「ひらりんちゃん」の人形を見せながら、「葉が黄色くなったら、みんなの近くに降りて応援する」という話をしました。北風が吹いた日、イチョウの葉が雪のようにひらひらと舞うことがありました。子どもたちは、「イチョウさんたちが、頑張れーって言ってくれているね」「イチョウさーん！頑張るよー」と言いながら、遊びを続けていました。子どもたちは、以前に聞いた話を思い出しながら、もう１回頑張ろうとする気持ちが育っていることを嬉しく思います。

さて、幼稚園教育要領では、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」として、大切にしたい学びの方向性が、「10 の姿」として示されています。（到達目標ではなく、方向目標）「健康な心と体」「自立心」「協同性」「道徳性・規範意識の芽生え」「社会生活との関わり」「思考力の芽生え」「自然との関わり・生命尊重」「数量・図形・文字等への関心・感覚」「言葉による伝え合い」「豊かな感性と表現」です。日々の何気ない遊びの中の学びを意識し、子どもたちの学びを確かなものとしていくための視点です。以前、ひらりんちゃん通信②では、自立心について書きました。保護者会のスライドでも、子どもたちが遊びの中から学んでいることを紹介します。遊びの中の学びが分かって、子どもたちの姿を見ると、学びの物語（過程）が見えてくることを願っています。

園庭開放では、保護者の皆さんが、子どもたちの頑張りや面白がっていることを支える様子を見る度に、映画のワンシーンのような温かさを感じています。来年もまた、子どもたちの「もう１回」と頑張る場面を共に支えてまいりましょう。

絵本の思い出

息子たちが小さい時は、寝る前に子どもたちと布団に入り、絵本を読むのが、私にとっても一日の終わりに、ほっとできる小さな楽しみとなっていました。

中でも、『てぶくろ』絵：ｴｳｹﾞｰﾆｰ・Ｍ・ﾗﾁｮﾌ　訳：うちだ りさこ（福音館書店）の話は、やり取りを覚えて、風呂に入るときの遊び「てぶふろ」として楽しみました。「そこに住んでいるのは誰？」「中に入れて」と、兄弟で順に入り、最後は犬の鳴き声で風呂から上がるという、湯船を手袋に見立てた劇遊びです。絵本を見る度に、思い出します。

また、『しりたがりやのふくろうぼうや』作：ﾏｲｸ･ｻﾗｰ　絵：ﾃﾞｰﾋﾞｯﾄ･ﾋﾟｰｽﾅｰ（評論社）は、特に息子のお気に入りでした。１ヶ月間毎日「読んで」と持ってきた、思い出の絵本です。ふくろう親子の愛情あふれるやり取りの最後に、お母さんふくろうが、優しく子どもを抱く場面があり、その絵と同じようにして一日が終わる毎日でした。今でもその当時のことを思い出すと、懐かしい気持ちになります。ふくろう坊やの様々な質問に対して、自分で確かめるように促すお母さんの姿は、自分で気付き、考え、行動する大切さを表しています。絵本は、幼児期に育ってほしい力を、そっと教えてくれています。

『６さいのきみへ』文：佐々木正美　絵：佐竹美保（小学館）は、６歳になるまでの成長の物語が描かれています。改めて、子どもの成長の喜びを実感できますように。